

まちづくり懇談会議事録

日 時：平成 27 年 12 月 1 日（火） 18：30～20：14

場 所：くりやまカルチャープラザ「E k i」（2 階）研修室 A

出席者：36 人

1. 開会

2. 町長挨拶

3. 懇談事項

(1) 野良猫対策・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・建設水道課

(2) 公営住宅への入居・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・建設水道課

(3) 公共施設などの杭打ち工事のデータ確認・・・・・・・・・・・・・建設水道課

4. 説明事項

(1) 道央廃棄物処理組合への加入報告などについて（資料 1）・・・・・環境政策課

(2) 街路灯の L E D 化について（資料 2）・・・・・・・・・・・・・住民生活課

(3) 防犯対策について（資料 3）・・・・・・・・・・・・・住民生活課

(4) 社会保障・税番号制度「マイナンバー」について（資料 4）・・・・総務課

5. その他

6. 閉会

《説明事項に関する質疑応答、懇談内容》

質問：マイナンバーの通知カードが届いた。通知カードの番号が、最終的な個人番号カードの番号になるのか。

住民生活課：通知カードの番号がマイナンバーそのものになる。

質問：申請後は通知カードを廃棄していいのか。保管しなければならないのか。

住民生活課：個人番号カードの受け取りの際に、窓口で返却となる。

質問：マイナンバーの番号など個人情報の管理はどこが行うのか。

住民生活課：マイナンバーの管理はそれぞれの自治体で行う。

質問：過去、年金などで情報の流出があった。漏えいのデメリットが大きいため、私は個人番号カードを申請するつもりはない。まだ全てが決まっていない事業で、本当に安全安心が確保できるのか。

総務課：個人番号カードの I C チップには税などの個人情報が入っていない。情報管理は、外部と遮断された端末を使用する。しかし、直接情報を抜き取ることができないわけではないので、担当職員が管理を徹底していく。

意見：個人番号カード作成に踏み出せない人は私の周りにも多い。今の説明の中で、取得の義務はないが、個人番号カードの申請を促していた。また、通知カードでもマイナンバーを使用できるが、顔写真付きの身分証明が必要とも言っていた。それならば、この説明の見出しを「個人番号カードを作りましょう」として、義務化すべきだ。

総務課：時間の関係もあり、先ほどの説明が不十分なところもあった。個人番号カードは国でも

申請を促している。ただ、絶対に取得しなければならないものではない。しかし、通知カードだけでは、一緒に提出する個人の証明書類が多くなる。顔写真付きなら1枚、無いものなら2枚。これでは利便性に欠けてしまう。

意見：資料などを熟読すればそういったことも理解できる。しかし、わかりづらい。個人番号カード取得に不安があるが、通知カードを捨てることもできず、壁に貼ったり、神棚にしまう人もいる。この状況を改善しなければならないのではないか。「やってもやらなくてもよい」では新しい制度は浸透しない。住民基本台帳がまさにそうではないか。町として取得を強力に勧めていかなければならないではないか。

総務課：これから制度も充実すれば、少しずつ取得がすすむのでは。

意見：他市町と連携するなど工夫して、取得を促す活動を展開すべきだ。

総務課：ご意見を肝に銘じて、事業をすすめていく。

質問：町が発行する住民票や子どもの入学などの書類全てにマイナンバーが入ることになるのか。

副町長：全ての書類にマイナンバーが入るわけではない。税や国民保険などから使っていくことになる。

質問：住民票にもつくのか。住民台帳法が変わったのか。

住民生活課：基本的には住民票にマイナンバーを記載して交付することはない。ただ、利用目的があり、必要な場合は窓口で本人確認できた場合に記載する。

質問：学校の入学書類にも入るのか。

副町長：現段階では予定はない。全体のシステムをマイナンバーに反映させるには時間も費用もかかる。国の方向性を見ながら、自治体として準備をすすめていきたい。

質問：では本当に必要になるまで使わなくていいのか。

副町長：利便性を高めるものなので、まずは取得をお願いしたい。今後活用の幅は広がっていく。

質問：何に使えるのかをはっきりさせてくれれば、メリットが理解でき、取得増につながるのではないか。

副町長：現段階では利用できる範囲の全てを明示できない。動向を見極めながら順次、お知らせしていく。

質問：1月1日からマイナンバーは役場で行う申請や証明書の発行全てに必要なことになるのか。

住民生活課：国民健康保険、後期高齢者医療などの申請の一部についてマイナンバーの記載をお願いすることになる。

質問：出かける時は、いつも持ち歩かなければいけないものになるのか。

総務課：常に携帯しなければいけないものではないが、役場での申請など、ナンバーの記載が予想される時は持って行ってほしい。普段は各家庭でしっかり保管しておいてほしい。

副町長：事業所では1月の給与から事業主に対してマイナンバーを知らせなければならない。給与所得者をはじめ多くの方に、紙の通知カードだけでなく、プラスチック製の個人番号カードに移行していただきたい。

要望：プラスチックなど、ごみで収入になったものを以前一度だけ広報紙で読んだことがある。回収したごみで収入に繋がったものがどのくらいあるのか年に一回程度教えてほしい。

環境政策課：再資源化により収入になったものはプラスチック以外にも多くあるので、今後広報紙を通じてお知らせしていく。

意見：国勢調査は5年前の前は役場に郵送していたが、今回は東京に送り、その後栗山町に戻っていた。無駄な時間、経費が掛かっているのではないか。インターネットでの調査は良かったので、良いもの、悪いものを整理し、次の調査に活かしてほしい。

経営企画課：調査員の皆さんには大変ご苦勞をおかけした。集計も順調に進んでいる。郵送の宛先はセキュリティの高い埼玉の集計センターになっていた。今回いただいた意見は、国に伝えていく。今後とも気づいた点があれば教えていただきたい。

称賛：昨年のごみ処理説明会で町民の理解を、この1年で他市町の理解も得て、無事に道央廃棄物処理組合に加入することができた。町長はじめ職員の皆さんにご苦勞様と言いたい。

町長：皆さんの理解もあり、ごみ処理の関係は何とか10月の段階で加入することができた。お礼を申し上げたい。

意見：5月に若者定住に関するアンケートをとったとの事で、その結果を新聞で見た。

「栗山に住みたい」と答えた人が20%程度ではなかったかと思う。もっと栗山に住みたいと思えるまちづくりが必要ではないか。

若者定住推進室：アンケートは栗山高校の生徒やその同年代の方、更には20歳～22歳の若い方を対象に行った。報道されたのは「栗山町に住みたいと思うか」という問いに対して、住みたいと思わないという回答が多かったという内容。これに間違いはないが、選択肢の中に「住みたいと思う」「住みたいと思わない」の他に「一時的に町外に住むことになって、また栗山に戻りたい」という選択肢もあった。整理としては「住みたい」と「戻りたい」には定住意向があるということになり、これを合わせると「住みたくない」より多いということになる。また、回答として一番多かったのは「わからない」だった。定住意向のある方の理由として「栗山が好きだから」「愛着があるから」といった回答が目立った。これは本町がすすめるふるさと教育の成果ではないかと考えられる。今後はプロモーション事業を展開し、若い世代にもっと栗山を好きになってもらえるよう、魅力を掘り起し、町内外に発信していきたい。

質問：どこの町村も表通りと裏通りに大差がないように見えるが、本町は表通りと裏通りの差が激しい。水道管も劣化している。裏道の整備をもっと行ってはどうか。

町長：年次計画で、必要なところからなるべく早く実施していくので、ご理解いただきたい。

建設水道課：ご指摘のとおり、水道管で経年劣化が見られるところは計画的に更新を行っている。道路も同じ。長期的な計画で対応している。

意見：若い人の働く場がない。去年販売した渋皮煮を若い発想を活用して、栗山で作ることはできないのか。若者の意向アンケートより空き店舗の活用などで若い人にチャンスを与えてはどうか。栗山のクリは栗山で加工するべき。

ブランド推進課：今年は昨年の300キロを超える収穫があった。渋皮煮の販売は今年も行う予定。加工は岐阜の恵那川上屋との関係も保ちつつ、町内業者での加工も予定している。収量が安定しないため、限定的な使い方しかできていないが、今後に期待していただきたい。

若者定住推進室：若者世代を対象としたプロモーション事業の中で、ワークショップを通じ栗山

への愛着を深めてもらう。また、働く場所を提供することも大切だが、先進地では若者起業家も増えている。そういった環境づくりも今後検討していきたい。

質問：篠原木材跡に大きな広場ができた。今後の活用方法は。

建設水道課：基本となる道路整備を行い、駐車場として活用したい。線路側は多目的広場としても利用できるのではないかな。いろいろな意見をいただきながら、駅を中心とした市街地形成を進めていきたい。

意見：広場は、J R利用者をはじめとして町外に対するアピールの場になる。活気のあるまちは駅を中心に栄えている。今回の整備を機会に、活性化アイディアを広く集めていただきたい。盆踊りや秋祭りなど、心のこもったおもてなしの祭りや町内の若者の力を借りたイベントなども良いのではないかな。皆で力を合わせていいまちにしていきたいと思っている。

町長：幅広いご提言をいただき、大変ありがたい。町としてもそれぞれ整理しながら、まちづくりをすすめていきたい。駅の広場は将来的な構想もしっかり考えた中で、年次ですすめ、商店街、市街地形成と連動させていきたい。

(20 : 14 終了)